

平成 27 年度第 1 回京都市図書館協議会摘録

○日 時：平成 27 年 11 月 12 日（木）

午前 10 時～12 時

○場 所：京都市右京中央図書館 研修室

○出席委員：[10 名中 9 名出席]

今野 圭子 委員

岩崎 れい 委員

北村 哲夫 委員

角谷 真子 委員

永田 信一 委員

西川 恵理奈 委員

初田 英人 委員

福井 雄大 委員

柳田 典子 委員 （五十音順）

○傍 聴 者：1 名

1 開会

(1) 出席委員紹介

(2) 中央図書館長の挨拶

- ・図書館には、情報の収集・発信と、本を読むという知的活動の場を提供するという 2 つの機能がある。
- ・これらの機能は、二項対立的なものでなく、図書館はバランスよく両方の役割を担っていかなくてはいけない。
- ・これらの役割の話などを中心に、委員の方々からご意見をいただき、できるところから実行していきたいと考えている。

(3) 会長・副会長の選出

会長に岩崎委員を選出，副会長に永田委員を選出。

2 報告事項

事務局から資料に基づき以下の項目について報告した。

(1) 京都市図書館の利用状況等の推移について

貸出冊数と入館者数の 10 年間の推移をみると，平成 17 年度以降，平成 18 年 1 月のインターネット予約の開始や平成 20 年 6 月の右京中央図書館開館などにより，

年々増加し、平成 22 年度には貸出冊数 約 792 万冊、入館者数約 432 万人とピークに達した。その後この 2 つの指標は微減傾向になっている。

平成 26 年度の数值は、貸出冊数は前年度比 0.4%増の 743 万 2 千冊、入館者数は前年度比 2.8%増の 415 万 6 千人となり、その他の数值も 25 年度と比較して増加した。ここしばらく続いた図書館利用の減少にストップがかかったかたちとなった。これは平成 26 年 4 月からの地域図書館の第 2・第 4 水曜日の開館の実施、6 月からの全図書館午前 9 時 30 分開館の実施、そして 6 館で行った図書特別整理期間の短縮が要因となっている。

しかしながら、平成 22 年度のピーク時までの回復にはいたっていない。要因は、インターネットやスマートフォンの急速な普及による情報源の多様化や活字離れ等の影響が考えられる。

(2) 京都市図書館の平成 27 年度の取組状況について

京都市図書館では本年度 3 つの新たな取組を実施した。

1 点目は図書の郵送・宅配返却。図書館に立ち寄ることなく、図書・雑誌を返却できるよう、「郵送・宅配による返却」を 7 月 1 日から開始。10 月末までの利用実績は、37 件 113 冊。

2 点目は DAISY (デイジー) 図書の貸出。従来のテープ図書に代わり、視覚に障害のある方や普通の印刷物を読むことが困難な方のためのデジタル録音資料 (CD) の貸出を、個人及び市立総合支援学校向けに 7 月 1 日から開始。現在中央図書館で 261 点所蔵しており、視覚障害などのため活字図書の利用が著しく困難な方は 1 人につき 4 点まで、また総合支援学校は 1 校あたり 10 点まで、貸出期間は双方 1 か月で貸出をしている。10 月末までの貸出実績は、個人 15 点、総合支援学校 43 点。

3 点目はブックリサイクルの実施。古くなった本や資料的価値が少なくなった本、保存期間が過ぎた雑誌などを個人に無償で譲渡するブックリサイクルを実施。1 回目は 10 月 15 日から 22 日までの間、図書館 20 館において、館内にリサイクルコーナーを設置して実施。9,211 冊の資料を準備し、1,711 人の方々に 7,854 冊譲渡した。多くの方に来館いただき、大変好評であった。今後は年 3 回、1 月・6 月・10 月の 15 日から 22 日 (休館日を除く) を図書館資料リサイクル週間として設定し、ブックリサイクルを定期的 to 実施していく。

(3) 第 3 次京都市子ども読書推進計画の取組状況について

今回の計画は平成 26 年度から 30 年度までの 5 年間で実施していくもので、京都市図書館でも様々な取組を実施しているが、今回は 5 点に絞って説明する。

1 点目は、トイレの洋式化の推進と児童コーナーの改修。トイレの改修は、洋式

トイレのない 11 館を 5 か年計画で順次改修していく。平成 26 年度は伏見中央図書館・北図書館・東山図書館のトイレの洋式化と吉祥院図書館の既設トイレの改修を実施。27 年度は中央図書館の洋式化を実施予定。児童コーナーの改修は、地域図書館 14 館を対象に 5 か年計画で順次実施。26 年度は北図書館・吉祥院図書館・久世ふれあいセンター図書館で実施。27 年度は東山図書館及び西京図書館で実施予定。

2 点目は、出前事業専用車両「青い鳥号」による学校・園等への出前事業の推進。

青い鳥号は、軽ワゴン車の後部座席を改造し、木製の本棚等を設置した車両。約 200 冊の本を積むことが可能で、学校や幼稚園へ読み聞かせやブックトークなどの出前事業を実施するもの。平成 26 年 11 月の配備以来、年度末までに 36 回稼働。平成 27 年度は、10 月末までに 52 回稼働している。

3 点目は、乳幼児の保護者用「読書ノート」の作成・配布。乳幼児の保護者の方を対象に、子どもの成長に合わせて、その時々でよく読んだ本などを書き込める読書ノートを作成し、図書館等で配布。26 年度は 25,000 部作成し、図書館をはじめ、保健センターや保育所で配布。27 年度は、好評であったことから、30,000 部作成し、図書館・保健センター・保育所などで配布している。

4 点目は中学校読書活動モデル図書館事業。1 か月間に本を 1 冊も読まない割合を示す「不読率」が高まる中学生への働きかけとして、平成 26 年度に市内 20 館のうち 4 館の図書館をモデル館として指定し、学校連携を積極的に行うとともに、その取組内容を全館で情報共有し、効果的な取組を全館に広げていくことを目指した。平成 26 年度は伏見中央図書館・左京図書館・山科図書館・洛西図書館の 4 館を指定し、近隣の連携する中学校と、中学生への読み聞かせ指導や本・読書に関するアンケート、中学生に向けた図書館だよりの発行などを実施。平成 26 年度末には全館でティーンズコーナーを設置し、27 年度は前年度の取組ノウハウを全図書館で共有のうえ、各館で各種取組を実施している。

5 点目は、学校において、本と子ども達の架け橋となる役割を担う「学校図書館運営支援員」への研修会の実施。中学校では家庭科の時間を利用して、中学生が近隣の小学校に出向き、小学生に対して読み聞かせを行うという授業が行われていることから、中学生への指導を学校図書館運営支援員が行うことができるよう、京都市図書館の司書が学校図書館運営支援員へ読み聞かせの実技指導を行う研修を行政区ごとに実施し、好評を得た。さらに、ブックトークの実技指導の研修についても、京都市図書館の司書がアドバイザーとなり、学校図書館運営支援員を対象に実施した。来年度以降も引き続き実施していく。

3 報告事項に関する質疑応答

意見： ブックリサイクルについて、今まで除籍した資料の取扱いはどのように行っていたのか。

回答： 除籍した本は、これまでは公共的施設、例えば福祉関係施設やスポーツ関係施設、刑務所や病院等の団体へ、団体の申し出により譲渡していた。それ以外の除籍資料は、古紙として売却していた。今回のブックリサイクルも団体への譲渡を優先させながら実施した。

意見： ブックリサイクルの際に行う検印を凝ったものにすれば、図書館のブランド化が図れるのでは。

回答： 雑誌や複本のある小説などがリサイクルされているので、美術書等のような価値のあるものは今のところない。今後の参考とさせていただく。

意見： 普段から市民しんぶん等を読んでいるが、ブックリサイクルやビブリオバトルなどがあることを知らなかった。情報発信の方法をさらに検討すべき。

回答： ホームページなどについても、もっと見ていただけるように工夫していきたい。

意見： ブックリサイクルについて、山科図書館だけ譲渡率が比較的低い。原因は。

回答： 山科図書館に確認したところ、リサイクルの資料に専門的な書籍等が多かったとのことが原因と考えられる。今回の結果を踏まえ、今後どのような資料をリサイクルに回せばいいかについて検討していく。

意見： 乳幼児の保護者用読書ノートについて、保育所はかなりの数あるが、希望の箇所全てに配布しているのか。

回答： 26年度は見本として、市内の各保育所に20部ずつ配布。追加配布を募ったところ、7つの保育所から申し出があったため、750部を当該保育所へ追加で配布した。

意見： 中学校読書活動モデル図書館事業について、26年度は左京図書館と洛西図書館で中学生向けの図書館だよりが発行されているとのことだが、これはそれぞれの連携校にだけ配布されたのか。また、今年度実施するのなら、全中学校へ配布できるような図書館だよりがあるとありがたい。

回答： 26年度を取組を踏まえ、岩倉図書館や西京図書館でも同様の取組が行われており、広がりを見せている。今後も順次実施していきたい。また、右京中央図書館では、これまでからティーンズ向けのブックリストを近隣の中学校へ配布している。

4 協議事項

＜事務局から協議事項について説明＞

京都市がこれまでの協議会での意見を踏まえ、実施してきた取組実績と今後の課題についてテーマごとに取りまとめを行った。取組実績の一例として、図書館サービスの向上について、開館時間を全館で30分早め9時30分開館とし、従来

休館日の第2・第4水曜日を開館、郵送・宅配返却の開始、DAISY（ダイジー）図書の導入等がある。その他にも、図書館へ来てもらえない方へのアピールとして、平成27年10月からはブックリサイクルを実施し、一定の効果があつたと考えている。

今後の課題として、関係機関との調整や予算確保などもあり、すぐに実施できるものではないが、一つ一つの課題に真摯に向き合い、実現に向けて努力していきたい。

今回、皆様に御議論いただきたいのは、図書館事業の在り方についてである。京都市図書館の取組として重視しているのは、①子ども向けのサービス、特に乳幼児及びその保護者向けのサービスの充実、②不読率の高まるティーンズ層への働きかけ、③図書館へ来てもらえていない方への働きかけ、の3点。

26年度の事業実施状況は、子ども向けのお楽しみ会や赤ちゃん絵本の会、大人向けの映画上映会等、市内20館で合計1,052回。各館が多くの方に利用していただけるよう様々な取組を実施している。

館内事業では、子ども向け事業が大半であることから、大人向けの事業・講座をもっと実施すべきなのかどうか。館外事業では、青い鳥号の配備もあり、平成26年度には出張読み聞かせ・ブックトークを139回実施し、平成25年度と比較して倍増している。

予算と人員に限りがあることから、目的やターゲットを絞って事業を実施していきたい。皆様から図書館の魅力向上、図書館のPRとして有効な事業の在り方などについて様々な角度からのご意見をいただきたい。

意見： 図書館の広報の方法について。様々な取組を実施しているので、もっと派手に広報してはどうか。

意見： 図書館が配布している中学生向けの図書館だよりは、中学生に対して非常に有効。

先日中学生への読み聞かせを行ったが、子ども達の反応が非常に良かった。大変だとは思いますが中学生への出張読み聞かせも是非行っていただきたい。

意見： 中学生は反抗期に入ると親ともあまり話さないと聞く。もっと芥川龍之介などの文学作品を読んでほしいが、どうしても漫画がついた本などに偏る。中学生としてちょっと難しい本を読みたいと思うような情報発信を行っていただきたい。

意見： 中学生になると忙しくなり、小学生と比較して本と触れ合う機会が減ることもある。また、小説以外にも経営や歴史等の本に興味を持つなど、中学生は関心が広がる時期。学校図書館には小説が多いと思うが、実用的な本も揃えていただきたい。自治体によっては、学校図書館の選書に関して、公共図書館がバツ

クアップしていると聞く。

回答： 学校図書館の選書に関して、京都市の小学校では、学校と公共図書館が連携し、実際に学校の先生が授業で使用して効果のあった「調べ学習用」の図書をリスト化のうえ、全小学校に配布し、今後各校での選書に役立ててもらおう事業を実施している。中学校における学校と公共図書館の連携の在り方については現在検討中。

意見： 学校と公共図書館の効果的連携について、学校図書館システムと公共図書館のシステムをつなげることは可能か。学校図書館のシステムで公共図書館の貸出状況や蔵書状況等が確認できればいいのだが。

また、図書館は静かなところというイメージがあるが、他都市では最近、アクティブラーニングのスペースなどがあり、話しながら学習を進めているところもある。静かに本を読みたい人のためのスペースもあるなど図書館の機能も多岐にわたってきており、京都の図書館もそのようになればいいなと思う。お金のかかることでもあるが、少しずつ変わっていけばいいなと思っている。

回答： 現時点ではシステムが異なるので、学校図書館のシステムから公共図書館をみることはできない。当面は、インターネット上の図書館ホームページの資料検索の画面を活用していただきたい。

意見： まち歩き・歴史ウォークなどは、最初に参加者同士で歴史等を資料や事典等を活用しながら勉強したうえで、実際に歩いてみることもある。その事前の勉強の際に図書館が利用できないか。コストもかかると思うが本棚等の配置換えなどによりスペースを作れないものか。

また、図書館などでいろいろな事業をやろうとすると大変である。退職した専門家をボランティアの育成等で活用できないか。

意見： 同志社大学の良心館では、カフェテリアやラウンジに加え、ラーニングコモンズが設置されている。同志社大学では図書館と分離してラーニングコモンズがあり、パソコンも設置されているが、学生がそれほど活用していないことから、賛否両論ある。

意見： まち歩き・歴史ウォークの事前学習会での図書館の活用は、中高年を想定したものの。今回の議論の重要論点は小中学生の図書館利用であるが、時間を有しているのは中高年であり、地域図書館等を利用しやすい層であるという観点から先ほど発言した。図書館にはいろいろな層の方が来館され、全ての層の人のニーズにこたえる必要があるので、全体を考慮して事業を実施していただきたい。

回答： 右京中央図書館の研修室は、学校の先生と子ども達が来館して、調べ学習の際に図書館の資料を活用し、この研修室で授業を行ってもらうことも視野に入れて設置した。興味を持ってくれた先生方もいたが、今までにそのように活用されたことはない。中高年向けにそのように活用してもらおうという発想が無かったので、中高年向けにも使ってもらおうことも検討できると考えている。

意見： 場所づくりという観点では、さまざまな層に使いやすいということ、それぞれの時間帯にどのようなサービスを行えば効果的なのかを検討する必要がある。公共図書館の魅力は、様々な年齢層の方がおられるということ。中西館長のご講演「恋する万葉びと」は、大人向けの研修会だと思うが、関心のある中学生なども参加したらわかるような内容とすることが、公共図書館では可能なのではないか。

他府県でも高校生向けの行事に大人の方も来られ、80代の方が高校生と交流を持たれることがあったと聞いている。年齢層を絞って行事を行うことも大切だが、様々な年齢層の方と交流できる機会を、特に中高生などに提供できるようになればいい。

また、退職された専門職の方がボランティアとしてバックアップできないかという話もあったが、京都は大学も多いので、大学の専門の方々と連携していつてはどうか。

意見： 市民の方やボランティア等を対象とした読み聞かせ講座の数をもっと増やしてはどうか。1回だけでなく、2回、3回と参加することで、読み方などのスキルが上がっていくと考えているので、右京中央図書館のように連続講座として実施してはどうか。

意見： 本を読むことも大切だが、人から本を紹介してもらいなどの、「人とつながることの楽しみ」も大事であり、人とつながることができる事業も合わせて実施していただきたい。

意見： 図書館は、いろんな世代の方と交流がしやすい環境にある。今ある取組を伸ばすことが重要。

意見： 中高生が来館するのは難しいと思うので、学校とのタイアップをしていただき、子ども達が図書に興味を持つような取組を引き続き実施していただきたい。また学校図書館運営支援への研修など、公共図書館だけでは見えてこない取組も引き続き実施していただきたい。

回答： 本日も様々な有意義なご意見をいただいたので、できるところから、少しずつであるが実現していきたい。